

# インドネシア経済の現状について

2012年4月17日

4月11日にインドネシア西部のスマトラ島沖でM8を越える地震が発生しましたが、今回の地震は大きな津波などに繋がらず、インドネシア経済への悪影響は限定的なものとなりそうです。インドネシアの国内経済は引き続き好調で、長引く欧州債務問題解決への進展が待たれるところです。当レポートでは、現在の同国の景気、為替、物価状況について情報提供いたします。

## 《注目が続くインドネシア経済》

### ●景気

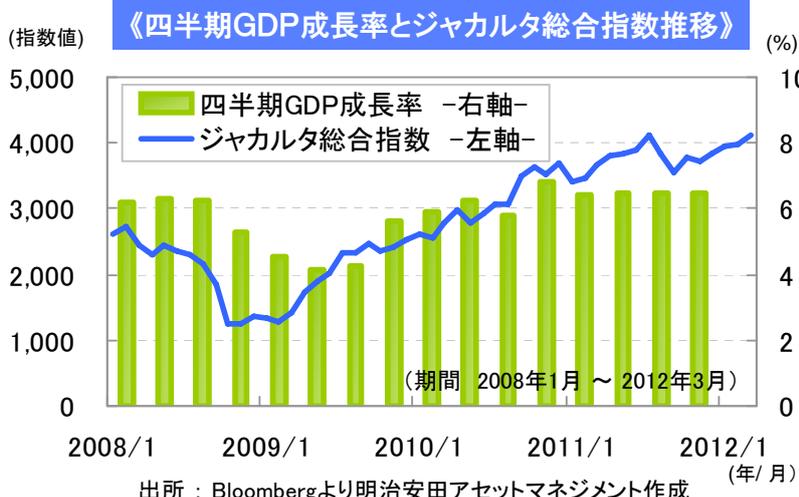
インドネシアは、株式市場は今月に入り最高値を更新する好調ぶりで、四半期ベースのGDP成長率でも成長率は6%を上回る水準が続いています。今後の見通しについても、個人消費や国内投資などの好調さは継続するとみられています。国内要因は好調ですが、一方で、国外要因は欧州債務問題が引き続き不安材料です。しかし、昨年度の深刻化した時期と比較するとその悪影響は薄らいでいると考えられます。

### ●為替

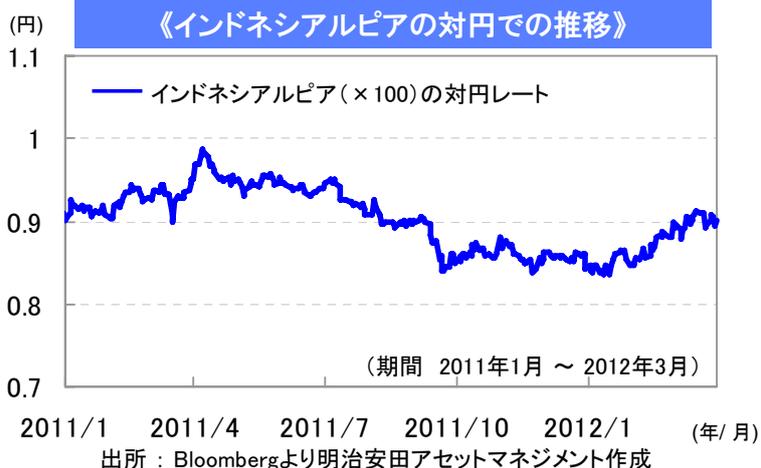
昨年12月のフィッチ・レーティングスに続き、今年1月のムーディーズ・インベスターズ・サービスのインドネシア国債の信用格付け引き上げの好影響で、今年に入りインドネシアルピアは強含んでいます。しかし、欧州債務問題は依然未解決で、海外投資家による資本流出の懸念が残るため、インドネシアルピアの本格的な上昇局面とは言えない状況です。

### ●政策金利と物価上昇率(インフレ率)

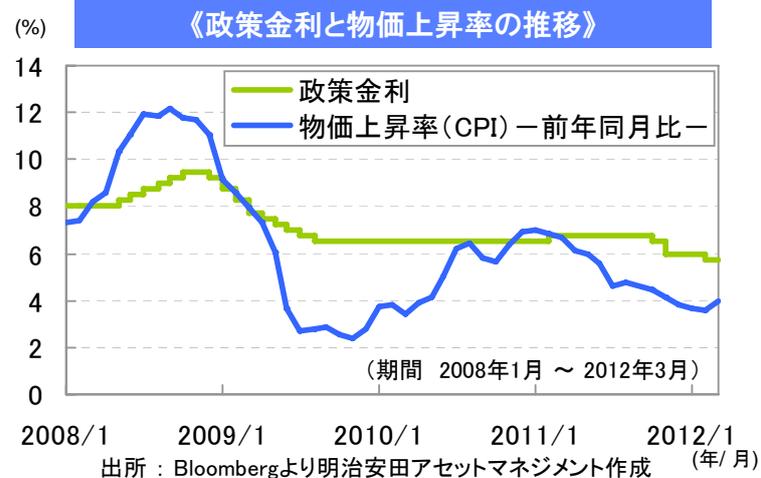
直近の原油価格上昇は懸念材料ですが、インドネシアの物価上昇率(インフレ率)は緩やかな上昇に止まっています。このような状況を受け、インドネシア中央銀行では4月12日の金融政策会合で政策金利の据え置き(5.75%)を決定し、インフレ率(物価上昇率)を目標である4.5%±1%のレンジ内に抑制することは可能との見解を示し、今後の物価の安定推移に楽観的な姿勢をみせました。



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客様の投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客様自身の判断でなさるようお願いいたします。